

～フィールドこぼれ話～

フェリーとしま

安藤匡子（共同獣医学部 病態予防獣医学講座）

私の初めての島嶼調査は、鹿児島大学に着任後2ヶ月の2013年12月トカラ列島の悪石島でした。調査の目的は、人獣共通感染症である「つつが虫病」を媒介する「ツツガムシ（の幼虫）」を探すことでした。ツツガムシ採集方法として野性動物（特にネズミ）を捕獲して吸着しているツツガムシを採る方法があります。ネズミからは、ツツガムシの採集だけでなく臓器から病原体を検出したりすることができるため、効率の良い調査ができます。以前から「ネズミ捕り」を実践的に習いたいと思っていたため、トカラ列島の調査があると聞いたとき「行きます！行きたいです！」と大興奮して参加しました。

そのときの調査参加者は、全国各地から総勢10名。ネズミ捕りベテラン5名、初心者5名（私もこちら）でした。トカラ列島には「フェリーとしま」に乗り、夜11時に鹿児島港を出港して翌朝に各島に入港します。「トカラに行く時は、フェリーに乗ってお酒を飲んで寝て起きたらもう島に下りるから。船酔いしないから酔い止め薬は必要ない」というベテラン先生からのアドバイスを真に受けてしまったのですが、往路は本当にそのとおりでした。

調査地は、トカラ列島の有人島である中之島、諏訪之瀬島、悪石島でした。順番に数名ずつが島へ下りていくのですが、悪石島に到着した時に初めて、自分が一番遠い島に送りこまれたことに気がついたのです。初めての離島、初めてのトカラ列島・悪石島は、ベテラン先生達の冗談話を全て鵜呑みにしてしまうような不思議な魅力に包まれた場所でした。そんな島でのネズミ捕りは、本当にすごく勉強になりました。罠を仕掛けた翌朝、回収に出かける私達のうしろから、近所で飼われていたヤギがトコトコ歩いてついてきたり。そして捕らえたのはクマネズミ2匹。このときの調査では、中之島と諏訪之瀬島を含めてネズミは全部で4匹でした。なんて貴重で高価なネズミ達でしょう！

さて、復路のフェリーです。朝乗船して夜に着港なので、酔い止め薬をのもうとしたところ「それじゃ、本当に船酔いしないかわからないじゃないか!」とベテラン先生にまでも止められました。そんな無茶な!と思いましたが、船酔いするか見極めるには絶好の機会だと考え直し、酔い止めなしで帰ることにしました。鹿児島につくのは夜だし、フェリーでは携帯もwifiも繋がらないしやることないし（本当はあるけど）、島で集めた材料の精査は明日からだしな～ということで、往路と同じ方法（お酒を飲んで寝る/お昼寝）を実践しました。そして、なんと、全く船酔いせずに帰り着いたのでした！

こうして、初めての島嶼調査により、ネズミ捕りを習い、トカラ列島に魅了され、「私は船酔いしない」と思い込むようになったのです。ありがたい話ですが、実際にはその後はちょいちょいと船酔いしています。



フェリーとしま 2013 悪石島